

若竹

~WAKATAKE~

第43号

2011/12/1発行

師走。朝夕の冷え込み、日没の速さに追いつられるような毎日に加えて、期末も近づき、生徒でもついつい早足になります。しかし、冷気で空気は澄んで、葉を落とした木々の合間から見える空は書き割りのようにすっきりと広がっています。地上の活動などどこ吹く風、白陵に広がる自然の営みは変わらない姿を見せています。寒さに背を丸めるだけでなく、来年への希望に胸を張ってください。

『私にとっての数学』 茅田 智幸先生（中3の4担任：数学）



「先生って数学好きなんですね」と言われることがある。場合によっては「内容はあまりよく分かりませんが、先生がこれ好きなんやなあってのはよくわかりました」と。これには多少複雑な気持ちになるが、さらに「とても楽しそうなので自分もそうやったらいいなと思います」と伝えてくれて嬉しくなることもある。

こういうとき、自分は本当に数学が好きなんだろうかと冷静に考えてみることもある。皆は私に、複雑そうな演習問題を一日中楽しく解き続けているといった印象を持っているようなのだが、そんなことは全くない。実際私は、極めて面倒くさがりやで、単純なことの繰り返しをとことん嫌う。では“私にとっての数学とは”と考えるのだが、結論として“自分を支えるものである”というように思う。職業という意味もなくはないが、自分の思考・思想の根底を成すものであろうと思う。

中高生のころ、身体的にも精神的にも病んでいた時期があった。現在は比較的健康だが、人に優しくありたいという想いだけは強く残った。人の想いを大切にしたいし、理解し受け入れたいと思う。むやみに人を否定することには、非常に哀しい思いがする。また、論理を超えた想いは尊敬に値する。数学はあらゆる多様性を受け入れる。真理と根拠を大切にし、意味のない否定が現れることはない。真偽を明確にするため感情のない冷たい世界だと思われがちだが、私にはむしろ非常に懐深く豊かな明るい世界だと感じられる。何かをとらえ考えるとき、それは人に対するときも、私は数学の世界のようにありたいと思う。

皆が数学にかける時間は少なくない。数学がよくわからないと思うこともあるだろう。数学は、想いを傾けていっても振り返ってくれることはなかなかない。しかし、それでも想い続けていると、ふと微笑んでくれたように感じることもある。このとき、この上ない幸せと喜びが感じられる。技術としての数学も大切だが、人の思考を支える存在としての数学を皆も感じ取ってくれればと思わずにはいられない。数学はいつも変わらず待っていてくれる。

岡山白陵交流会

2011.11.5



11月5日(土) 岡山白陵中学との交流会が本校に於いて行われました。岡山白陵からは中学2年と3年の生徒委員会役員26名が来られました。私たち44名は白陵会館で意見交換をしたあと、記念棟などを案内しました。

意見交換は、それぞれの学校の自慢をグループに分かれて話し合いました。私たちのグループでは自販機で販売されている物について話しました。当学の方が

安いそうです。また、他のグループでは、制服の違いや先生方の噂などを楽しく話し合ったそうです。同じ三木学園でも、いろいろな違いがありました。

意見交換をした後、記念棟を案内しました。岡山白陵の人はサモトラケのニケ像や記念棟の広さに驚いていました。

たった2時間の交流会でしたが、意見交換だけでなく、初対面だった人と親しく話すこともできました。とてもいい1日でした。

(中1：二川真由)

去る十一月五日、我々四十六人の選ばれし白陵生は白陵会館にて、岡白との交流会に臨んでいた。こちら46人、相手26人、戦争だったら数勝ちできるかと思いきやそうでもない。岡白生はめちゃくちゃしっかりしていた。



岡白生は、姉妹校にやってくるという気負いもあるのだろうが、それを差し引いてもその姿のなんと堂々たることか。まさに一騎当千の猛者である。さて、白陵生が立派な岡白生に気後れしていたかということ、そうでもない。皆持前のノリによさと気さくさですぐに打ち解け、当後にはどっちが白陵生で岡白生かわからなくなっていた。

岡白と白陵といえば、どちらも違った校風を維持してそれぞ～れスタイルで生徒を育てている上、受験などの影響で少しギャップを感じている人もおられよう。しかし、同じ三木学園生としてこれほど仲よくなれる友がいるとは思わず、少し感慨に浸ってしまった。皆さんも一度、岡白の友にメールの1通でも送ってみられたらいかがだろうか？

(中2：増田力也)



岡白との交流会に参加するのは今年で3回目になります。1回目は岡白に行ったことしか覚えてないし、2回目は先生などの生活に密着した部分を結構いろいろ知ったのですが、今年は何をしたのかなと思い返してみます。

そう考えてみると、全体会とか向こうの生徒委員長の話で生徒委員会の活動の形がそれなりに違うことを聞いてこっちも頑張ろうと改めて思ったり、校舎案内を弾丸ツアーでやったり、たわいもない話をしたりと、結構色々やったなと思います。

行くのが3回目になっても飽きたりすることはなかったです。むしろ、どんどん楽しくなっていく気がします。行くたびに新しい人と出会い、新しい事を知り、そういう意味で、とてもいい会でした。欲を言えば4回目も行っちゃいたいくらいに。やっぱり、それはだめですか…。(中3：正田浩一郎)



こんにちは。
岡山白陵中学部生徒
委員長の葛谷友恵で
す。

私はこの白陵と岡
白の交流会を、中3
になった時から本当

に楽しみにしてきました。前日の夜は、「今年の交流会はどんなものになるのだろう。」と考えていてなかなか眠れないほどでした。

みなさんは、生徒会の交流会と聞いて、どんな事を想像するのでしょうか。きっと「真面目な意見交換会」のようなものを想像する人が多いのではないかと思います。しかし、実際は終始笑いが絶えず、本当に楽しい交流会でした。

私が特に印象に残っているのは、グループに分かれて「我が校自慢」をお互いに話し合ったことです。おなじ三木学園でも制服や名札の色、行事の内容などが違います。例えば、同じ中三でも岡白の名札の色は緑です。他にも先生や部活の話題などで盛り上がり、予定の二十分間は本当にあっという間でした。その後、私たちは同じグループの人に校舎や記念棟を案内してもらいました。岡白は来年の七月に新校舎が完成します。似た雰囲気

の校舎になると聞いたので、とても完成が楽しみになりました。

私が住んでいる岡山から曾根までは、電車で二時間ほどかかります。交流会の日も移動は大変でしたが、その分貴重な時間を過ごせてとても嬉しかったです。最後になりましたが、この交流会を企画、進行して下さった白陵の生徒委員会の皆さん、および先生方、本当にありがとうございました。(岡白:葛谷)



岡山白陵 新校舎建築中

芸術鑑賞会

2011.11.12



銃声が轟く日々。消えゆく命。敵兵に脅え続ける日常。それこそが戦争だ、とあらためて感じた。私が特に魅力に感じたのは、愛情深い妹ねずみでも、面白み溢れる両親でもなく、道化師ともいえる役割のコバルトだった。男にただの道具として扱われ、拳句の果てに捨てられる。それでも相手を恨むことなく、超然としている。哀しみをたたえながらの強さ。日々を平穩に暮らす私達には無いもの。だから

こそ、欲する。戦争など起こらなければいい。だが、戦争があるが故に生まれる何かもあると思う。それは何か？人とのつながりの深まりと、大切なものを、ヒトを護ろうとする気持ちだ、強い思いだ。そしてそれらは、平和な世にこそ必要だと、私は感じた。『護もるものがあるから、人は弱くなる。護もるものがあるから、人は強くなる』この言葉の意味を今の人にこそ考えてほしい、と思う。(J1-1 土田夏湖)

本日の公演は、外国のオペラと違い解り易く、大変楽しむことができました。感想は書ききれないほどあるのですが、一番心に強く感じたことをお伝えします。私には作曲活動をしている友人がいます。今、中三で、家業の医院を継ぐか、大好きな作曲の勉強を続けるか迷っています。公演のパンフレットで、著名な作曲家林先生と、作曲家兼ピアニストの萩先生の名前を見て、ふと友人を思い出しました。キャストの皆さんの名演技や珍しいサムルノリという楽器、目を見張るような衣装や道具に、つい目を奪われてしまうのですが、台本、脚本、音楽を一から作られている素晴らしいスタッフがあってこそこの舞台です。作曲活動に青春をかけている友人に今の感動を伝えたいです。本日は、関係者すべての皆さんの熱い思いがまっすぐに伝わってきました。(J1-1 長谷川真理子)



私はオペラを見るまで堅苦しいものだと思っていました。しかし、始まってすぐにその考えは間違

いだったと思いました。バスと一緒に登場した天竺ネズミの一家。戦争中でも懸命に自分たちにできることをするという姿勢に感動を覚えました。しかし、戦争の影響により子を相次いで亡くしてしまいます。それでも親はその悲しみを乗り越え、新しい仲間と一緒に一歩を踏み出します。そういう内面の強さを強く感じることもありました。このオペラの主役はネズミでしたが、表しているものは人間の世界です。戦争という背景の中で希望を失ってはいけないということを感じられました。笑いと涙の中でそのメッセージがしっかりと伝わってきました。(J2-1 上田響子)

みなさんはどうでしたか？実際演技を見さしてもらうと、最も、すごいと思ったのは表現力です。明るい雰囲気から暗い雰囲気までを、しかも、ネズミの世界で自在に表現できるのは、そう簡単にできることではない、と感じました。劇団の方々は普段から練習などを、きちんとされている、からこそなんだな、と感じました。後、もう一つ強く思ったのは、あの小道具のバスにしても細部までとても繊細に作られていることです。なので、プロの演技には、とても迫力があり感動させられました。白陵で、毎年、このような機会があるのはとても嬉しいことです。文化祭や体育祭では見られないものが、見ることができるので、とてもいい機会だと思います。また来年が楽しみに、なります。(J2-3 人見直輝)



音楽の授業でオペラを見た時の印象は「固苦しい」ものでした。あまり自分の中では気が乗らず、記念棟に入った時は「早く部活に行きたいなあ」と思っていました。しかし暗い顔をした僕の目に飛び込んできたのは踊りながら太鼓を叩くねずみ。

「えっ!？」一気にオペラに引き込まれました。それまでの僕のオペラに対する印象はガラッと変わりました。僕が一番驚いたのは女性の声の大きさです。あんなに大きな声を出す人は、僕の姉以外に見たことがなかったので本当に驚きました。途中で意識が遠くなることがありましたが、ちゃんと聞いていました。嘘じゃありません。聞いていました。毎年、文化講演会は面白いので来年は何か楽しみです。(J3-2 大崎大輝)

今年の芸術鑑賞会ではオペラを上演するというので、僕ははっきり荘重な音楽が鳴り響き、聞いてもどういう展開になっているのか分かりにくい、正直退屈してしまうような古典的なオペラなのだろう、と内心不安でしたが、実際見てみると全く違いました。まず、最初に感じたのが楽器の違いでした。従来のオーケストラとは違い、今回のオペラでは出てきた楽器はサムルノリだけで、軽快なリズムで見ていて飽きを来させないような音楽で



した。物語の方も始めの方こそ登場人物の名前が分からなかったのですが、途中の休憩でプログラムを出して読んでみると、パッと頭に入ってきて分かりやすい内容でした。そして何より、物語の中にギャグ何たくさん散りばめられていて、これはオペラというよりはコメディミュージカルなのでは、と思ったくらい非常に面白かったです。(J3-4 露口慶一)

白陵生とともに学ぶ5



「ほんまにここであってんのかなあ・・・。」と、敷地の広さと校舎までの道のりの長さに、校門前でウロウロそわそわした日からもう8年も経ちました。皆さんは初めて校門をくぐった時はどんな気持ちでしたか？それからたくさんの思い出を生徒の皆さんと一緒に作らせてもらいました。運動会で3年間リレーの教員チームで走らせてもらったり、毎年のように入学式・卒業式で皆さんの凄く緊張してる顔、うれしくてたまらない顔、思わず泣いちゃった顔などなどをみて幸せを感じさせてもらっています。そういえば2年前の卒業式は本当に感慨深かったです。私が白陵に入った年の新入生、いわば同期の子達が立派に巣立っていく姿に思わず涙ぐんでしまいました。職務から事務室に用事のない子と接する機会はあまりありませんが、そんな私でも白陵の一員として、生徒の皆さんと一緒に泣いたり笑ったり時に怒ったりして日々過ごしています。と、ここまで書きましたがいまいち私が誰かわかってない人に！合格発表の日に合格通知書を渡していたものです。おそらく今の中学生はほとんどの子に渡しているはず・・・。事務室で見かけたら思い出してみてね！（辰巳奈美）



私は、たいてい事務室にいるので、みなさんの教室や行事での様子が知れる若竹をいつも楽しく読ませてもらっています。みなさんの担任の先生を紹介している記事なんかは職員室では見られない先生を知ることができておもしろいです。先日お芋掘りの様子を見学して、自分で育てたお芋を食べられるなんていいなと思いました。ここに何を書こうかと考えましたが、最近少し部屋の整理をしたのでそのことについて書きます。人が普段よく使うものを整理すると、例えば鞆の中を全部出して、必要なものといらないものを分けてみたら、ほとんどの人は3分の2が使っていない無駄なものだと気づくそうです。当然、人によってライフスタイルが違いますから分ける基準は異なりますが、同じ部活の友達のロッカーや隣の人の机を見て、自分との違いを発見し、要不要を見極めることで整理の本質である判断力を磨けると思います。机の中がぐちゃぐちゃな人はたいてい、頭の中も混乱しているそうです。身の回りが整理できれば、的確な判断ができ、何事もはかどるようになります。私も部屋の模様替えをして、少し気持ちもスッキリした気分です。何かもやもやすることがあったら、気分の切り替えもできるでしょうし、試してみてもうでしょうか。最後にみなさんは私の名前も知らない人がほとんどだと思いますが、また事務室に来た時でも顔を覚えて下さいね。（木坂友美）

私たちの先生紹介

神尾先生



僕たち一年3組の副担任である神尾先生は、理科Ⅱを教えていただいている先生です。先生は、見た目通りすごく真剣で熱心な人です。先日の中体連の時も、熱が出ていて体調が悪かったのに、学校に来ておられました。理科Ⅱの授業では、板書が少ないですが、絵やプリントなどを使ってとても上手に説明してくださるので、僕たちも非常に理解しやすいです。それに、新聞記事のコピーなどを配られるので、僕たちに生物に対する興味を持たせてくださいます。先生

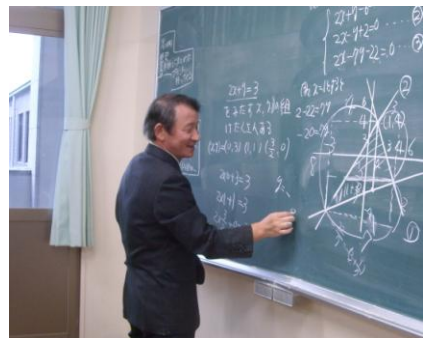
はいつもたんたんとして授業を進めておられますが、たまに生徒に大ウケするネタを披露されます。そんな時には、教室が爆笑で包まれます。クラスの空気が一変してとたん楽しくなったりします。また、定期テストには奇妙な問題が出されます。一学期の期末テストでは条件に基づいて献立を考える問題が出ました。その度に僕は愕然として、「やられた！」ととても悔しい思いをすることになります。

僕たちの神尾先生は、授業がとても分かりやすく、面白い先生です。

南坂先生

私たち1年4組の副担任の南坂先生は、数学αを担当されています。授業はとてもわかりやすく、わからないところは生徒がわかるまで丁寧に教えてくださいます。でも宿題がとても多いので、たいへんです。とてもやさしい先生で、性格は穏やかで、小柄なのにととてもタフで元気です。先生は、運動神経がとてもよく、バスケットボール部の顧問をされています。また、数学研究会というサークルをされています。趣味はバッテングセンターに行って、体を鍛えることと、コンピューターをすることだそうです。また、この前の芋掘りでは、たくさんの芋を掘っていただきました。掘りかたのコツも教えていただきました。本当に何でもできるのだなと思いました。

そんな先生が、私たちはとても好きです。



常寿園慰問

2011.11.19

11月19日、14:00から老人ホーム「常寿園」に慰問しました。80歳、90歳にもなるおじいちゃん、おばあちゃんが100人程いました。そこでは、神尾先生と中1の大西君による「手品」、中3の浮田君と北村君による「漫才」、芳木先生による「落語（宿替え）」が行われました。そして最後には、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に童謡5曲歌いました。1時間10分というとても短い時間でしたが、僕たちが訪れて一緒に話したり歌ったりしているとあんなに喜んでくれるおじいちゃん、おばあちゃんたちを見て、僕たちもとても元気づけられたし年齢を越えた心のふれあいにとても感動しました。（中3：大西彬介）



交流会の最初に、園の理事長さんが挨拶されているとき、お年寄りたちが、頷きながら笑顔を見せて一生懸命耳を傾けていらっしゃる様子を拝見して、いい感じだった。また、本校の中学生・教師による拙い芸を観ていただいている姿も、みんな一体となって拍手されたり、笑ったりされて、会場はいい雰囲気だった。喜んでもらっているのだなと感じ取れて、訪問してよかったと思った。

今の世の中、個人主義が高じて、ややもすると自己中心的になってしまいがちである。こんな風潮であるからこそ、社会生活において、きちんと挨拶をすること、ひとと笑顔で接すること、喜びや感謝の気持ちを相手に素直に示すことなども大切なのだ。感謝されたり、喜ばれたりすれば、されたほうもうれしいし、幸せに思えるのだから。こんなことを、入園していらっしゃるかたたちから教えられたような一日だった。（芳木健憲）

最近ほとんど寒くなりましたよね。

そうですね。

寒くなってきたらあたたかい食べ物欲しいですよ。

ええ、例えばおでんなんていい感じですよ。おでんといえばたくさんの種類の具がありますが、(O)は何か好きなのある？

ピーマン。

・・・ピーマン！？待て待て！

今おでんの話なのになんで急にピーマンなんかでてくの！？

おでんにはいっててケチャップかけて食べるやん。



いやふつうそんなんじゃないから・・・

なんて無駄話で始まった今回のコント。老人ホームですることになりお年寄りの方達に笑っていただけるようなネタを作れるか、とても不安でした。しかも急に司会まで任されてしまって、僕達なんかで本当にいいのだろうかと思った。そんな気持ちのままこの日がきてしまい、とても緊張してあやうくネタを忘れるところでした。そんなこんなでなんとかネタをやりとおすことができ、皆さんにもまあまあ笑っていただけたので、今回のコントは記憶に残る良い思い出です。(中3：北村孝寛・浮田凌希)



僕は手品が得意です。手品は4歳ごろから始め、手品歴9年ぐらいです。白陵に入り僕の手品はさらに上達しました。その理由は、神尾先生との出会いです。それから、僕達はいろいろな場所で手品をしてきました。その1つが常寿園です。僕は、お年寄りの前でするのは今回で3回目です。しかし、何回しても緊張するものです。そして、僕が心配していたのは驚きの反応があるのか、という事です。しかし初めに神尾先生が、「おどろいたり

びっくりした時は大きな拍手してください。」と言って下さったので、お年寄りの方はいっぱい拍手して下さいました。おかげでやりながら励みになりました。そして、お年寄りの皆さんも僕の手品を見て楽しんでくれたと思います。今回の常寿園との交流会を通して僕の手品を見て、より元気になり、お年寄りの方々がいつまでも長生きしてくれるといいな、と思いました。(中1：大西健太)



中体連(東播大会)活躍記

2011.10

テニス部インタビュー

生徒委員会：池上・正田→委員
テニス部：J2 緒方・J1 阿二→部員
顧問教員：前田先生→顧問



委員：東播新人大会 3 位ということで、インタビューをさせていただきます。よろしくお願いします。

部員：よろしくお願いします。

委員：このペアにしようと思ったきっかけは何ですか。

顧問：阿二君は小学校の時に少しテニスを習っていました。彼はどんな時も自分のペースを崩しません、また、ここ一番の勝負強さが光ります。その点で緒方君が安心してプレー出来ると思いました。

委員：先生は今大会についてどのようにお考えでしょうか。

顧問：このペアの良い面が出た大会だったと思います。また保護者及び市内の中学校のテニス部の友達や先生がたに喜んで頂き大変嬉しいです。また何より、白陵の生徒たちが喜んでくれたことが嬉しいです。

委員：練習の内容を教えてください。

部員：練習時間は1～2時間で、内容は乱打、サーブ、レシーブ、ボレー、一本打等です。

委員：試合前に必ずすることはありますか。

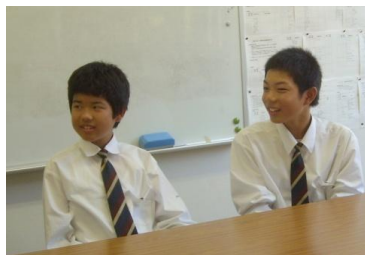
部員：二人で積極的にコミュニケーションをとります。特に試合での各自のプレーの約束等を話します。

委員：次への抱負をお願いします。

部員：11月6日の大会で2, 3回は是非勝ちたいです。

委員：貴重なお時間頂き有り難うございました。県大会、頑張ってください。

部員：有り難うございました。頑張ります。



県大会の結果は、大変健闘し、頑張りましたが、残念ながら一回戦敗退でした。